

副病院長就任挨拶



副病院長・看護部長 大 戸 朋 子

平成27年4月1日より、副病院長に就任しました看護部長の大戸朋子です。

現在、看護部職員は700名を超え附属病院の中で最も大きな部門です。看護部の理念は、「私たちは患者さんの意思を尊重し、思いやりのある看護を提供します」です。今回、看護部長が副病院長職に位置づけられましたことは、これまで以上に安全・安心な看護を提供することの使命があると重責に感じています。

病棟の看護体制は、PNS(パートナーシップ・ナーシング・システム)を導入し、看護師が2人のペアになって日々の看護を行っています。外来は看護師を増員して、患者情報収集室を設置しました。まだ始めたばかりですが、入院が決定した患者さんを対象に、入院前に必要な情報の聞き取りを行い、病棟の看護につなげて退院後の生活を支援できるシステムを作ることを目指しています。また、看護師長、副看護師長が地域の関連病院や訪問看護ステーションで研修をさせていただき、退院支援をより充実させていくための学びの機会を得ています。国の政策として推進されている地域包括ケアシステムに対応できる院内での体制作りに、看護部も参画して進めています。

現在進行中の病院再整備は、外来、病棟ともに患者さん・ご家族の方などに、大変ご不自由、ご迷惑をおかけしています。外来待合スペースが狭くトイレも少なくなり、通路も狭く暗い状況です。また、病棟までの廊下も狭く迷路状態になっています。再整備を進める過程では、ある程度予測された状況もありますが、日々生じる事態に戸惑いや直ぐに対処できないことへのジレンマもあります。お気づきのことがありましたら、職員を通して、または「声」の書面でも結構ですので、忌憚のないご意見をお聞かせください。真摯に受け止めて対策を考えていきます。

私は、附属病院の開院時より看護師として勤務し、この病院で育てていただきました。今後も皆様の信頼に応えられる看護部職員を育て、チーム医療の一員としての役割が果たせるように努力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

教授就任挨拶



医学教育センター

中川 幹子

平成27年4月1日付けで、医学部附属医学教育センターの教授に就任しました中川幹子と申します。私は熊本大学を卒業後、開院間もない大分医科大学（現 大分大学医学部）附属病院に赴任し、循環器内科を中心とした診療や教育、研究に従事して参りました。また平成17年には本院に女性専用外来を、平成19年には漢方外来を開設し、地域の皆様に優しい全人的医療を提供できるように努めて参りました。

わが国は近年、少子高齢化が急速に進み、地域医療の充実が重要な課題となっています。医学教育センターの仕事は、①優れた医療人（医師、看護師）を育成すること、②それを通じて地域医療の充実・発展に寄与することです。具体的には学生教育カリキュラムの構築、医学教育の評価、卒後臨床研修に関する業務など多岐にわたります。

医学部附属病院の使命として、医学生や看護学生の教育があります。外来および入院患者の皆様には、学生教育の面では日頃より大変お世話になっております。医学科1年生の早朝体験学習（地域貢献ボランティア実習）では、病院外来ホールでの挨拶や受付業務の補助の経験を通して、地域の皆様と直接触れ合い、患者中心の医療について学んでいます。医学科5、6年生の臨床実習（クリニカル・クラークシップ）および看護学科2-4年生の看護学実習では、各診療科を回って臨床実地修練を行っています。皆様のご協力のお陰で、学生達は充実した実習を行うことが出来、医療人としても、人間としても着実に成長しております。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

私は医学教育センターでの活動を通して、正しい医療倫理を身につけ、患者さんに寄り添える優しい心を持った医療人を育成し、将来大分県の地域医療を担う優秀な人材や、世界で活躍できる広い視野を持った人材を育てることを目標に頑張る所存です。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

心不全治療また一步前進

— 補助人工心臓植込み成功 —

心臓のポンプ機能が低下し全身に必要な血液を循環させられなくなるのが心不全です。手術でよくなる弁の病気と異なり、心臓の筋肉が原因不明で動かなくなる心筋症や冠動脈がつまり心筋が死んでしまう心筋梗塞などでポンプ機能が落ちてしまうと薬で対処するしかありません。薬が限界にきますと最後の治療として心臓移植しかなくなります。

しかし実際は移植適応者の数より心臓提供者の方の数は圧倒的に少なく移植までに3年から5年待たねばならない状況にあります。その間に病状が進みますと補助人工心臓を装着して待つこととなります。この補助人工心臓には体の外側の大きなポンプと体が太い二本の管で繋がっている“体外型”とポンプが体の中に入っていて電気を通す細い管だけが体から出ている“植込み型”の二つがあります。機能面で植込み型が圧倒的に優れています。また体外型ではずっと入院してはなりません。植込み型の場合は自宅で通常の生活が送れ、就業することも可能です。

大分大学は全国23箇所にしかないこの植込み型補助人工心臓移植施設に認定されています。今年3月第一例の植込みが行われ、患者さんは大変お元気で現在退院に向け準備をすすめています。この治療を受けるためには心臓移植適応患者さんとして認定されている必要があります。なんとか薬で心不全が治療できている方が突然悪くなれることがあっても移植認定を受けていないと植込み型補助人工心臓を装着できません。現在心不全と診断され治療を受けている方はできる限り心臓移植認定の申請をすることをおすすめします。認定されたからといって移植をうけないといけないわけではありません。急変したときのよりよい治療を受けるためのチケットと思ってください。確かに認定基準はきびしいですが（65歳以下でなければならない等）、まずは一度大分大学の循環器内科もしくは心臓血管外科にご相談いただければと思います。

（文責 心臓血管外科 宮本 伸二）



今回植え込まれた手のひらサイズの補助人工心臓



患者さんのリハビリの様子

ナノバブル水灌流と高気圧酸素療法を併用した 難治性下顎骨骨髓炎の治療

慢性下顎骨骨髓炎は治りにくいあごの骨の病気のひとつです。歯髄炎に続いてできる歯根周囲の炎症が放置されると、炎症が顎骨の中へ広がってゆき骨髓炎が生じます。頑固な骨の痛み、歯が浮いた感じ、咬み合わせた時の歯の痛み、さらに進むと下唇のしびれなどの症状が出ます。治療はまず抗菌薬の投与を行いますが、下顎骨の中には薬が移行しにくいいため、薬が効きにくいことがしばしばです。そのような場合には全身麻酔の手術により、傷んだ骨を削って取り除くことが必要になります。しかし細菌が入り込んでいる範囲はレントゲン検査で把握することが難しく、術後に骨髓炎が再発することが少なくありません。

そこで当科では、再発をくり返す難治性の慢性下顎骨骨髓炎に対してナノバブル水灌流と高気圧酸素療法の併用療法を導入しました。この治療は、まず傷んだ骨を手術により削りとり、その部分にチューブを挿入してナノバブル水で7日間持続的に洗浄します。ナノバブル水は1 μ m以下の微小な気泡を含む滅菌水で、高い殺菌効果を持っています。この水で病変部を洗うことで侵入している細菌を殺すことができるわけです。写真1は手術中の写真で、病変部にチューブを留置しているところです。口の粘膜は縫合して完全に閉じます。図1のようにチューブを皮膚から外に出し、その一端からナノバブル水をゆっくり流します。チューブの先端部には小さな穴が開いており、そこからナノバブル水が流出して顎骨内を洗い、再びチューブへ戻って体外へ排出されます。

7日間洗浄後にチューブを抜き、続いて高気圧酸素療法を30回（1日1回）行います。高気圧酸素療法は密閉性の治療タンクの中に入り2～3気圧下で酸素を吸入することにより、血液中の酸素濃度を上げて組織の治癒を促進する治療法です。

ナノバブル水灌流と高気圧酸素療法の併用療法は、中津市の川嶋真人先生（川嶋整形外科病院理事長）からのアドバイスで開始しました。先生は大腿骨骨髓炎に対してこの治療法を実施して、その有効性を証明しています。一方、下顎骨骨髓炎への応用例は国内でもまだ少ないようです。治療日数が長くなるので少し大変ですが、再発を繰り返す下顎骨骨髓炎を確実に治すための有効な治療法になることが期待できます。



写真1
傷んだ骨を削った部分にナノバブル水を流すためのチューブを留置しているところ。

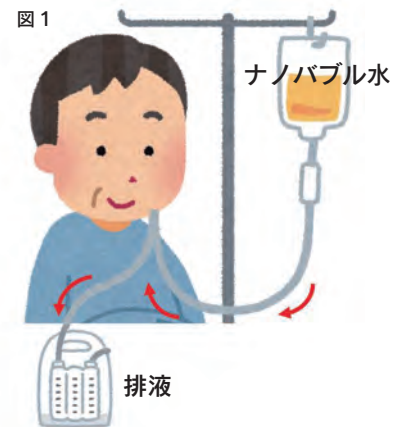


図1
ナノバブル水をゆっくり流して顎骨の中を洗います。矢印はナノバブル水が流れる方向です。



八方塾(大学病院市民公開講座)のご案内

第5回目となる八方塾が、平成27年6月23日(火)に開催され、「知って得する～正しい薬の使い方」を総合テーマで、産科婦人科 西田欣広准教授が「知っておくと役に立つ漢方薬」、龍田涼佑薬剤主任が「お薬の上手な使い方」と題して講演をしました。

代表的な漢方薬の効能や西洋薬との違いについて、また薬の正しい使い方のポイントについての話などがあり、参加された方々は熱心に聞き入りメモを取られていました。講演後も演者を取り囲み質問をされる方が多くおられました。下はその時の写真です。



次回第6回八方塾は《腎臓外科・泌尿器科》の主催で、テーマは未定ですが9月頃に開催する予定です。詳細が決定次第院内掲示板・ホームページにてお知らせ致します。申し込みや予約は不要で、無料ですので、どうぞお気軽にお越しください。

問い合わせ先：大分大学医学部附属病院医事課 患者サービス係

☎097-586-5430・5431 (平日9:00-17:00)

駐車場は、医学部附属病院の外来駐車場をご利用ください。当日用無料チケットを配布します。

シリーズ

病院再整備

【材料部の移転】

材料部は、病院再整備に伴い平成27年3月に、中央診療棟1階(放射線部前)へ移転し、新しい施設、設備のもと業務を開始しました。以前は、病棟及び外来と手術部の器材の「洗浄・滅菌業務」を別々に行っていましたが、全ての「洗浄・滅菌業務」を一元化し業務の効率化と品質保証に努めています。

材料部は、業務内容から滅菌部門と物流部門の2つに大別されます。これらの部門により、院内全体の滅菌の品質保証、医療材料に関わる業務を一元化し効率的な運用と定期的な定数見直し、期限切れ防止などにより経費削減に取り組んでいます。このように、品質保証・業務の合理化・コスト管理・適正在庫管理・搬送管理などの高水準な業務管理を行い、臨床で使用する医療材料を厳しい品質保証のもと定期的に見直し、供給・補充することを業務としています。



滅菌部門



物流部門

(文責 病院再整備推進室)

高気圧酸素治療について

高度救命救急センター
センター長 重光 修

平成27年4月1日より高度救命救急センター長を拝命いたしました。重責を果たせまよう全力を尽くしたいと思っています。これまでどおりご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

さて、平成27年5月12日より当センターに設置されております一人用高気圧酸素治療装置の稼働が始まりましたので、ご案内をさせていただきます。日常環境の気圧は1気圧ですが、高気圧酸素治療装置内では通常2気圧まで加圧し、血液中の酸素量を増やします。治療時間は1回約90分で必要により数日継続します。これにより虚血部位の酸素化の改善、抗菌作用、浮腫の軽減などの効果が得られます。適応には一酸化炭素中毒、ガス壊疽、壊死性筋膜炎、骨髄炎、空気塞栓、急性末梢血管障害、重度の急性脊髄障害、網膜動脈閉塞症、突発性難聴などがあり、救急疾患の治療にも効果が期待されています。治療の際には、事故防止のため専用病衣への着替えや発火物の持ち込みは制限されますのでご協力をよろしくお願いいたします。



一人用高気圧酸素治療装置



あなたの声を待っています。良い病院になるために

患者さんの「声」は要約して載せておりますのでご了承願います。



声

駐車料金のあり方について、患者のものしか割引がないが、幼児の入院でどうしても付き添いが必要な場合など、毎日700円の負担は大である。母子家庭・低収入であればなおさらである、無料とすべき、大学病院が駐車料で利益を得る必要はないであろう。然るべき立場の者より見解を伺いたい。(入院、男性)

回答

長期付き添い者の駐車については、駐車場利用はご遠慮いただいておりますが、やむを得ない理由があって駐車場を利用する場合は、主治医と病棟師長の承認を得ることにより、駐車料金は、1回100円となります。各病棟に備えている「長期付添者駐車許可申請書」により、駐車許可手続きを行ってください。

声

退院してからも使用したいので低カロリージャムを販売してもらうことはできますか、また、食堂にそういった製品のカタログを置いて取扱店舗を教えていただけると助かります。普通のスーパーにもありますか。あと、料理の献立のカードに調味料やグラムの表示があると大変参考になり助かります。お手間とは存じますがご検討いただけると幸いです。(入院、女性)

回答

治療食のために、特別に使用する低カロリーの食品や、減塩・低塩食品、蛋白質調整食品などは、「特別用途食品」となります。そのため、医師や管理栄養士の指導を受けて使用することが推奨されております。入院または外来時に栄養相談(予約制)を実施しておりますので、ご利用下さい。栄養相談の予約については、主治医の先生にご相談下さい。また、食事時に一緒に配膳する食札については、紙スペースや字の大きさに制限があるため、表示する内容が限定されております。献立の詳細や調理方法についてのご質問は、病棟看護師に相談していただければ、管理栄養士、調理師が病棟へお伺いし、説明を致します。

(文責 病院長 津村 弘)

大分大学医学部附属病院

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 TEL 097-549-4411 (代)

大分大学医学部附属病院ホームページ <http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html>

1号から61号までの「かけはし」は、医事相談窓口にありますので、遠慮なくお申し付け下さい。また、医学部附属病院ホームページからもご覧いただけます。

